

江南市まちづくり会議（全体会議） 議事要旨

会 議 名	平成 25 年度 第 1 回江南市まちづくり会議（全体会議）				
日 時	平成 25 年 11 月 18 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分				
場 所	江南市役所 3 階 第 3 委員会室				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #c0c0ff; width: 100px;">市民委員</td> <td>宮川秀男(第 1 分科会分科会長)、岩井喜美子(第 1 分科会副分科会長)、松尾昌之(第 2 分科会分科会長)、社本 亘(第 2 分科会副分科会長)、加藤幸治(第 3 分科会分科会長)、柴田広美(第 3 分科会副分科会長)、柴田 熙(第 4 分科会分科会長)、森崎芳子(第 4 分科会副分科会長)、奥村忠(第 5 分科会分科会長)、飯島和代(第 5 分科会副分科会長)、中田 實(学識経験者)、武長脩行(学識経験者)</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0c0ff;">市職員</td> <td>小塚昌宏(代理)(第 1 分科会)、宮島まち子(第 2 分科会)、吉野賢司(第 3 分科会)、武馬健之(第 4 分科会)、坪内俊宣(第 5 分科会)</td> </tr> </table>	市民委員	宮川秀男(第 1 分科会分科会長)、岩井喜美子(第 1 分科会副分科会長)、松尾昌之(第 2 分科会分科会長)、社本 亘(第 2 分科会副分科会長)、加藤幸治(第 3 分科会分科会長)、柴田広美(第 3 分科会副分科会長)、柴田 熙(第 4 分科会分科会長)、森崎芳子(第 4 分科会副分科会長)、奥村忠(第 5 分科会分科会長)、飯島和代(第 5 分科会副分科会長)、中田 實(学識経験者)、武長脩行(学識経験者)	市職員	小塚昌宏(代理)(第 1 分科会)、宮島まち子(第 2 分科会)、吉野賢司(第 3 分科会)、武馬健之(第 4 分科会)、坪内俊宣(第 5 分科会)
市民委員	宮川秀男(第 1 分科会分科会長)、岩井喜美子(第 1 分科会副分科会長)、松尾昌之(第 2 分科会分科会長)、社本 亘(第 2 分科会副分科会長)、加藤幸治(第 3 分科会分科会長)、柴田広美(第 3 分科会副分科会長)、柴田 熙(第 4 分科会分科会長)、森崎芳子(第 4 分科会副分科会長)、奥村忠(第 5 分科会分科会長)、飯島和代(第 5 分科会副分科会長)、中田 實(学識経験者)、武長脩行(学識経験者)				
市職員	小塚昌宏(代理)(第 1 分科会)、宮島まち子(第 2 分科会)、吉野賢司(第 3 分科会)、武馬健之(第 4 分科会)、坪内俊宣(第 5 分科会)				
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 江南市戦略計画の目標フレーム（人口、財政、土地利用）について 2. 中期計画期間の成果と課題について 3. その他 				
資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標フレーム（人口・財政・土地利用） 2. 中期計画期間の成果と課題 3. まちづくり評価 4. 戦略計画見直し作業結果 				

◆ 会 議 結 果 ◆

1. 江南市戦略計画の目標フレーム（人口、財政、土地利用）について

- ・江南市戦略計画の目標フレーム（人口、財政、土地利用）について事務局より説明がありました。

【意見交換の内容】

- ・扶助費は平成 26 年度から平成 29 年度まではあまり増加していないが、平成 30 年度以降に団塊世代が 70 歳以上になることで扶助費も増えるという解釈でいいのかとの質問があり、平成 29 年度の時点ではまだ扶助費に影響は出ていないが、団塊世代の高齢化により扶助費が増額することは予想しているとの説明がありました。
- ・人件費についても、職員の数の減少により平均賃金下がっているわけではなく、団塊世代が退職したことで職員の平均賃金下がったという解釈でいいのかという質問があり、職員の新陳代謝により平均賃金下がっているとの説明がありました。
- ・道路や橋のインフラ整備と公共施設の老朽化対策にかかる投資的経費についてどのように進めていくのかとの質問があり、インフラ整備については改修計画を立てて進めていき、公共施設の老朽化対策は、平成 35 年度くらいに集中して耐用年数が切れてくるため、再配置計画等を作成し、耐用年数が切れる前に計画的に進めるよう検討していくとの説明がありました。
- ・その他経費の増額の理由は何かという質問があり、主に国民健康保険税・介護保険料などの特別会計への繰出金の増額が要因となっているとの説明がありました。
- ・当初の計画に掲げた選択と集中の理念に対して、全体として現状を踏まえて、あまり大きな問題が今後、出てこなければ、現状維持ができるという計画になっている。扶助費は修正前では減少していく計画にな

っていたが、修正後では微増ではあるが、徐々に増額していく計画になっており、現状維持に向けて着実に見直しはされている。この計画は人口、財政の現状が維持できることを前提とした計画になっていることを踏まえておかなければならないとの意見がありました。

2. 中期計画期間の成果と課題

- ・全体の目標達成状況について、事務局より説明があり、その後、各分野の分科会長から、中期計画期間における成果と課題、修正した指標について説明がありました。

【意見交換の内容】

- ・耕作放棄地について、市としてどのように対応していくのかとの質問があり、草が生えることで生活環境が乱されるということもあり、現状では草が生えないように市のほうから指導している。今後は市民菜園の拡大について、提供された土地に対して需要と供給が合致するようにいかにマッチングしていくかが今後の課題であるとの説明がありました。
- ・分野別会議では、休耕地が増えている原因について、農業従事者の高齢化・跡取りがいないということであると考えられるが、環境整備のための指導など市のコストを下げるだけでなく、相続やまとまった休耕地の確保など難しい課題はあると思うが、休耕地を工業用地に転換し、企業を誘致し、市の税収増につながるような施策を行ってはどうかとの意見があったとの報告がありました。
- ・休耕地を市に貸与し、代わりに税金を免除してもらうことはできないかという質問があり、市民菜園として提供いただいた場合も謝金を出しており、税金の免除はしていない。最近では農業法人として土地を借り、農業経営している方もお見えになるので、休耕地対策として活用していただくという方法もあるとの説明がありました。
- ・電磁波による体への影響についても市として対策を考えていく必要があるのではないかと意見がありました。
- ・老人クラブの会員数の平成 29 年度の目標値を 9,000 人から 5,400 人に下方修正することに対し、会員数が増えないのは江南市だけの問題ではないが、高齢化により老人は増えているのに、会員が固定化し、新しい人が加入しづらく、活動内容もあまり魅力がないというところに問題がある。現状に合わないからといって何でも合わせていくのは、目標達成のために努力をしなくてもいいということになってしまうので、あくまでも目標として掲げるべきものは掲げておかなければならないのではないかと意見がありました。
- ・これに対し、老人クラブは 60 歳以上から加入できるようになっているが、実際には年金支給年齢の引き上げにより 65 歳からでないと年金が支給されないといった社会的背景に加え、仕事をされている方が多いと考えられるため、現状の会員数を維持していく方向で、目標値を修正したとの説明がありました。
- ・これまでの老人クラブの活動はいかに余暇を充実させるかということに向いていたが、今は老人クラブの対象となるような人が社会貢献をしたいというニーズがあり、そのような人たちの活動の場を用意することが必要であるとの意見がありました。
- ・価値観の多様化により、老人クラブとしてひとくくりにすることが難しく、社会貢献についてもこれから老人クラブの中で議論が必要であるとの説明がありました。
- ・老人クラブだけではなく、NPO などでも高齢者が活躍している中で、高齢者がどれだけ元気に社会貢献しながら生活を送れているかを捉えるため、高齢者の全体像をつかむような指標が必要ではないかと意見がありました。
- ・老人クラブという名称を例えばいきいきクラブのように変えることはできないのかという質問があり、県や市単位の老人クラブ連合会ではいろいろな愛称を使って活動されているところもあるので、老人クラブでなければならないというわけではない。愛知県の老人クラブ連合会も愛称を使っているため、老人クラブとは違う名称を使うことはできるとの説明がありました。
- ・待機児童ゼロについて、人気のある保育園であると定員を超える入園希望があり、入れないと聞いたことがあるがどうということかという質問があり、子育て支援課では、近くではないかもしれないが、市内の保育園の定員には余裕

があるので、その他の園を紹介しているとの説明がありました。子どもを預けて働きたいという親は大勢いると思うが、働いていないと保育園に子どもを入れることはできないのかとの質問があり、働いていないと入れないわけではなく、いろいろな家庭事情もあるので、保育園に入っただけのように受け入れている。働く場所を探すために1か月間預かることもできるとの説明がありました。

- ・ 消防団員の充足率の指標について、定数は常に満たしているが、市民の安心のさらなる向上につなげるため、実際の活動に対する指標を設定してはどうかとの意見がありました。
- ・ 救急救命士有資格者数は、平成24年度に22名の実績があり、平成29年度までに22名の目標のままで行くのかという質問があり、55歳以上の有資格者は、救急出動する部署には配置せず、若い救命士を養成し、新陳代謝を図っていくとの説明がありました。

3. その他

- ・ 市民参加について、江南市市民自治によるまちづくり基本条例の中にある市民の意思の表明に関する手続きを整理し、市民参加条例として確立していくため、条例案の作成を進めており、委員間の情報共有を図るため、地域協働課長より江南市市民参加条例（案）について説明がありました。市民参加の器作りとして、今後の市役所の役割としては、市民への周知、条例の運用の習熟を進めること、市民の役割としては市政に関心を持ち、意見を表明し、審議会などの委員などに積極的に応募していただきたいと考えているとの説明がありました。
- ・ 来年1月26日から2月1日にかけて、市内4施設で住民説明会を開催し、戦略計画の後期基本計画の見直しについて、広く市民に説明していく予定である。その際には、各分科長さん方に、市長、副市長、部長職員とともに、ご出席をいただきたいとの協力依頼がありました。
- ・ 来年度は、10月頃からまちづくり会議を開催し、平成23年度から25年度までの3か年分の達成度を検証し、江南市戦略計画達成状況報告書としてとりまとめ、広報やホームページで公表していくとの説明がありました。